**【まずは森から！里山の森を再生する仕事】令和８年度京丹後市地域おこし協力隊 募集！**
**木こりに学び、森に光を入れる。ネイチャーポジティブを五箇の森から。**
**森に光が入れば、カブトムシや生きものたちも戻り、人も集まる。集落の先輩から意志や技を受け継ぎ、人と自然が生き生きと共存できるまちを一緒につくりましょう！！**

京丹後市は、京都府最北端の町として知られ、四季によりいろいろな表情を見せる美しい日本海をはじめ、雄大な山々、清らかな川、それら大自然がもたらす景観や豊富な食資源、また源泉が４０カ所もある温泉に絹織物の生産量日本一を誇る丹後ちりめん、また近年は長寿のまちとしても注目を集めるなど、全国的にはまだまだ知られていませんが、誇るべき資源がたくさんあるまちです。

今回募集する協力隊の活動拠点となるのは峰山町五箇地域。京丹後市の中心市街地から車でほんの１０分ほど、地域の象徴「磯砂山(いさなごさん)」の麓に位置する長閑なエリアです。たくさんの城跡があるほか、日本最古の羽衣伝説が語り継がれる歴史ある場所です。

また、かつては山林に囲まれた立地を活かした林業が盛んで、製材所などもたくさんありました。人が木を切り、山を使い続けることで森には光が差し込み、豊かな里山が保たれてきました。例えばカブトムシは、原生林よりもある程度人の手が入った里山（クヌギなどの樹木は光が差し込むことで樹液が出やすい）の方が多いと言われていて、実際５０年ほど前は、ちょっと山に入るとすぐに虫かごが一杯になったそうです。春には蝶々が舞い、初夏にはホタルが辺りを飛び交い、夏には蝉の声が響き、秋には鈴虫やコオロギの声が響き渡る…人の手が入った森のまわりには、四季を通じて多彩な生きものたちが生き生きと暮らす環境がありました。

そんな峰山町五箇地域ですが、林業の衰退とともに製材所も閉鎖され、山に人の手が入らなくなりました。手入れされなくなった森は暗くなり、生きものたちが暮らしやすい環境も損なわれていきました。夏の夜のホタルや秋の虫の声も、ここ数十年でめっきり少なくなったように感じます。山に囲まれた長閑な景色はそのままなのに…

この時の流れの中で、かつて虫かごを一杯にしていた子どもたちも大きくなり、孫を持つおじいちゃんになりました。昔の記憶を頼りに、「昆虫たちを捕まえて孫を楽しませてやろう！」と一緒に山に入りましたが、全く採れずに孫も退屈そうにしていたそうです。「孫を楽しませてやれなかった残念さ」と「環境が変わってしまったさみしさ」から生まれたのが、今回の『五箇の森 再生プロジェクト』です。昆虫や生きものたちが戻ってくるためには、まず森そのものを元気にすること。間伐や下草刈りで森に光を入れ、人の手で守られてきた里山の環境を取り戻し、それを介して地域を活性化することが目的です。



## いま、「森を守る仕事」が注目されています！

いま、国は「ネイチャーポジティブ（自然再興)」、つまり２０３０年までに自然が失われていく流れを止め、回復へと転じさせることを大きな目標に掲げています。陸と海の３０％以上を保全する「３０by３０（サーティ・バイ・サーティ)」や２０２５年４月に施行された地域生物多様性増進法による「自然共生サイト」の認定など、地域の人の手で自然を守り育てる取り組みを後押しする仕組みも整ってきました。

実は、日本の生きものが減っている大きな原因のひとつが、里山に人の手が入らなくなったことだと言われています。里山の草花や生きものは、人が木を切り、草を刈ることで保たれてきた明るい森や草地で暮らしてきました。五箇の森を手入れし、生きものが戻る環境をつくることは、国が目指すネイチャーポジティブを、小さな集落の森から実践することでもあるのです。

## 峰山町五箇地域にはこんな方々が！

この地域では、熱い想いを持った方々が、心地よい暮らしの維持や繋がりづくりに取り組んでいたり、地域の資源を活用して特別な体験を提供する施設を運営しています。みなさん、今回の「五箇の森 再生プロジェクト」での連携が期待できる方々です。

まず、このプロジェクトの師匠的存在となるのが、集落で長年木こりを続けてきた『地域のレジェンド』。木の切り方や運び出し方、山の歩き方から、どこが誰の山で、昔はどんな森だったのかまで、五箇の山を知り尽くした大先輩です。「この技と山を次の世代につなぎたい」と仰る先輩のもとで、森の手入れを実践から学ぶことができます。

次に、地域のみなさんが安心安全に暮らせるようにと地域づくりを進める『五箇地区地域づくり協議会』。たくさんの人が地域づくりに関われるようにと地域住民が参加するワークショップを開催し意見やアイデアを引き出したり、地域の広報誌を定期的に発行し便利で楽しい情報を地域内に発信しています。

そして、今回のプロジェクトの「言い出しっぺ」も在籍する「五箇プロジェクト」。五箇プロジェクトは、地域に楽しさを生み出す取り組みを仕掛けています。特徴的な取り組みは「五箇の朝市」。この朝市は春と秋の年２回開催され、地域で活躍する事業者さんを中心に１０～１５店舗ほどのブースが出店され、飲食や雑貨にワークショップなど様々なコンテンツが揃います。今では地域外からもお客さんが来るなど、毎回３００人を超える人が集まる人気のイベントです。

さらに、いまや京丹後市で訪れるべき施設の上位にランクインするであろう「蒸 -五箇サウナ - 」。ここは築１００年の古民家を改修したサウナ施設で、本場フィンランド式の本格サウナが堪能できるだけでなく、心落ち着く田園風景や施設内を流れる清らかな川、ご近所さんとの深い繋がりなど、自然と人が共存する里山での暮らしが体験できるようなあたたかい場所です。このサウナを運営する「株式会社まにま」の素敵な家族（ご主人は令和７年３月までこの地域で活動していた元地域おこし協力隊）は、森を活かした地域づくりに関心を持ち、今回のプロジェクトに連携パートナーとして参画します。協力隊としても、移住者としても、地域の住民としても、心強い良き先輩・仲間になってくれるでしょう。






五箇プロジェクトによる朝市の様子

また、蒸 −五箇サウナ - からもう少し奥に入ったところにある「天女の里」。ここは、日本最古の羽衣伝説の地、磯砂山の麓にある交流施設で、コテージやキャンプサイトを拠点に、渓流釣りやニジマスつかみ、こんにゃくづくりやそば打ちに餅つきなどの田舎暮らし体験が楽しめる宿泊機能もある人気の施設で、今回のプロジェクトの拠点となり得る場所です。

それぞれが独自の特徴を持った団体や施設ですが、「この地域が大好き」「素晴らしい環境を未来に繋ぎたい」「ここの良さをもっと知ってほしい」という想いは共通しています。だから、今回のプロジェクトの話を聞いて、ワクワクし、どんな連携ができるか楽しみにしています。

木こりの先輩・株式会社まにま・地域おこし協力隊の三者が強く連携し森の手入れを進め、地域の生きものの豊かさを取り戻していくことが、このプロジェクトの軸になります。今回紹介できていない人・団体・施設が地域内外にはたくさん存在します。たくさんの仲間を見つけながら、あらゆる人やモノを巻き込み、大きな渦をつくり、森を再生し、人と自然が生き生きと共存するまちづくりを実現し、自然との触れ合いを求める地域内外の方々との繋がりを深めていきましょう。

## 今後のステップ

現在の環境は、長い年月を掛けて少しずつ変化してきたものなので、一瞬でかつての景色を取り戻せるものではありません。もしかしたら、地域おこし協力隊として活動いただく期間内（最長３年間予定）に目標としているゴールイメージには到達できないかもしれません。ただ、プロジェクトのスタートとなるこの３年間がすごく重要な「はじめの一歩」になるのは間違いありません。

活動中に３回夏を迎えることを想定したステップは以下のイメージです。まずは森の手入れの技術を身につけながら、森と生きものの今の姿を知ることから始めます。そして、今回のプロジェクトの目的は「森を再生し、人と自然が生き生きと共存できる環境づくり」なので、生きものの数もひとつの指標にして、その推移を肌で感じ楽しみながら、目標に向かって活動してもらいたいと思います。

| １回目の夏 | ２回目の夏 | ３回目の夏 | ４回目の夏に向けて |
|---|---|---|---|
| ・森と生きものの実態調査<br>・木こりの技術習得<br>※安全講習含む<br>・整備エリアの選定<br>・仮説設定 | ・実態調査<br>・森の整備（間伐など）<br>・観察会など試行<br>・仮説検証<br>・更なる仮説設定 | ・実態調査<br>・森の整備　※規模拡大<br>・自然体験ツアーの実施<br>・仮説検証 | ・実態調査<br>・活動まとめ<br>・森を守る仕組みづくり<br>※生業化<br>・地域への提言 |
| | **森に戻る昆虫・生きものたちの数の推移イメージ** | | |

もちろん昆虫数の推移はあくまでイメージで、仮説～実施～検証～仮説を繰り返しながら少しずつでも増えていけばと思っています。整備した森の広さや、確認できた生きものの種類なども、あわせて記録していきます。また、冬は木の伐採に適した季節です。冬から春にかけては、木こりの先輩と一緒に森の手入れに汗を流しながら、実態調査に加え「仲間集め」「次年度の活動計画策定」「春から夏にかけて実施するイベントの企画立案」などいろんな人を巻き込んでいく仕掛けづくりを推進してもらいたいと思います。

## 遂行いただきたいミッション

### ◎里山の森の再生（生きものたちが暮らしやすい森の整備）

木こりの先輩から伐採・間伐などの森づくりの技術を学びながら、株式会社まにま、
五箇プロジェクトメンバーやその他、地域内外の人・団体・施設と連携し、森の整備を実施
※定期的な樹木の間伐や下草刈り、腐葉土づくり
※伐採技術の習得（チェーンソーの特別教育の受講など、安全に作業するための講習を含む）
※拠点場所の確保（拠点に相応しい場所探し、山林所有者の使用許可など）

### ◎生きもの調査と記録

森の整備の前と後で、植物や昆虫、鳥などの生きものを調査・記録し、環境改善効果の見える化
※専門家や大学との連携
※国の「自然共生サイト」認定など、森の価値を外部に示す制度の活用の検討

### ◎イベント計画立案とその実施

例えば、間伐体験や森づくりボランティア、森の中での自然観察会、
インセクトツーリズム（自然と昆虫にふれあう体験ツアー）など、森をキーワードに地域外からの
誘客を目的としたイベントや自然環境やその保護に目を向けるようなイベントの計画立案とその実施
※森を起点とした収益事業化の検討
　森林整備の受託、木材・薪の販売、炭づくり、インセクトツーリズム、自然体験など

### ◎こまめな情報発信

SNS を活用し、森の手入れの様子や森に戻ってくる生きものたちの様子、環境改善の過程を
「ネイチャーポジティブの実践」として発信することで、広く関心・応援を集める
※イベント開催時の告知にとっても重要ツールとなるためフォロワーの増加にも努める





※天女の里で行われたイベント「タンゴサウナ祭」の様子（株式会社まにま主催）

～具体的な活動のイメージ～

■活動拠点となる五箇エリアの地域住民との交流　※地域内でのネットワークづくり

■木こりの先輩に同行しての技術習得　※伐採、間伐、下草刈り、道具の手入れなど

■自然環境の実態調査　※主に磯砂山(いさなごさん)、鱒留川(ますどめがわ)

■森の整備と生育環境の改善　※間伐や下草刈り、カブトムシの産卵にも適した腐葉土づくりなど

■生きもの調査と記録　※整備前後の比較、専門家との連携

■地域内外に向けた情報発信　※週数回を目標にしたSNS発信

■仲間探し(営業活動)　※地域内外での連携先、応援者探し

■各種情報収集　※森づくりや里山保全に必要な情報、他市町の事例調査など

■自身の生業づくり（プロジェクト内での収益構造に限らず、任期終了後の定住に向けた生業づくり）

## こんな人を待っています！

■自然が大好きな人

■森や里山、林業に興味がある人

■植物や昆虫など生きものが好きな人

■環境問題やネイチャーポジティブに関心の高い人

■地域や人生の先輩からいろいろと学びたい人

■人と接するのが好きで、人を巻き込むのが得意な人

■子どもと接するのが好きで、童心を忘れていない人

■行動力のある人

■体力に自信のある人

■人に可愛がられるタイプの人

## さらに、こんな資格・経験・特技を持っている人、大歓迎！

■林業・造園・環境調査・アウトドアなどの仕事や活動の経験がある人

■チェーンソーや刈払機を使った経験がある人

■植物や生きものの観察・調査の経験がある人

■特技が写真もしくは写真を撮るのが超好きな人　※魅力ある情報発信用画像

■情報発信（特にSNSなどデジタルツールを活用した発信）に長けた人

■森や自然について相談できるような幅広いネットワークをお持ちの人






※蒸-五箇サウナ - とオーナーの足立ファミリー（右側：地域おこし協力隊OB）

## １　募集人数　１名

## ２　募集対象

次の項目をすべて満たす人を対象とします。

① 委嘱の日において、年齢が１８歳以上の人。性別は問いません。
② 現在、３大都市圏又は地方都市をはじめとする都市地域等に居住されており、地域おこし協力隊として委嘱後、住民票を京丹後市に移し定住できる人。
③ 任期終了後、京丹後市に定住し、起業・就業しようとする意欲を持つ人。
④ 普通自動車免許を有しており、実際に運転ができる人。
⑤ パソコン等の一般的な操作及びインターネットやＳＮＳなどを活用できる人。
⑥ 地域住民と積極的にコミュニケーションを図り、精力的に行動できる人。
⑦ 心身ともに健康で誠実に職務を行うことができる人。
⑧ 地方公務員法第１６条に規定する欠格条項に該当しない人。

## ３　身分等

「京丹後市地域おこし協力隊設置要綱」に基づき、市長が委嘱します。隊員と市は業務委託契約を締結し、隊員は役務の提供に対する謝礼として契約に基づく報酬の支給を受けるものとします。隊員と京丹後市の間に雇用関係は存在しません。

## ４　委嘱日及び委嘱期間

委嘱日は、令和９年２月を予定していますが、相談に応じます。予定日から活動ができない人の応募も可能です。ただし、遅くとも令和９年３月３１日(水)までには着任いただきます。

委嘱期間は１年間ですが、活動状況・実績等を勘案し、最長３年まで延長します。ただし、隊員として相応しくないと判断した場合には、期間中であっても委嘱を取り消すことができるものとします。

## ５　活動時間及び勤務時間

１日あたり７時間４５分、１週あたり４日間を目安に、活動内容を考慮した上で、市と協議し調整できるものとします。

## ６　待遇等

ア　報酬　月２７０，０００円／月（報酬、各種手当、活動費含む）
イ　健康保険料及び年金保険料は各自で負担していただきます。市は雇用保険には加入しません。
ウ　活動期間中の住居は、個人でご準備ください（京丹後市の家賃補助はありません）。
エ　活動に使用するパソコン類、車両については、個人でご準備ください。
オ　副業や兼業が可能です。
カ　転居に伴う費用は、原則、個人負担となります。
キ　住居の改修や転居に伴う費用について、条件に合えば市の移住支援施策を利用することができます。詳しくは市ホームページをご覧ください。

## ７　支援体制

京丹後市では、中間支援組織による活動の支援を実施しております。日々の活動から任期終了後の生業づくりまで様々なサポートを受けることができますので、安心して活動していただけます。

※ネットワーク構築のための交流会や各種セミナーなどへも業務の一環として参加していただきます。

## ８　応募手続

（１）応募受付期間

１２月７日（月）から１月８日（金）まで

（２）応募方法

京丹後市ホームページから応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、地域コミュニティ・にぎわいづくり課までメールにてご提出ください。なおファイルは PDF 形式に変換して添付ください。

また、応募用紙と同時に住民票（スキャンデータ）もご提出ください。

※提出書類：応募用紙、住民票　ともに PDF 形式にて

（３）応募条件

応募には、原則１２月５日（土）に開催する現地フィールドワークへの参加が必要です。

参加が困難な人は別日での対応を検討いたしますので、事務局までご相談ください。

## ９　活動内容の詳細について

プロジェクト発足の経緯や具体的活動内容など、今回の募集に関しての疑問や質問などありましたら、地域コミュニティ・にぎわいづくり課（担当：柳）　TEL：０７７２―６９―１０５０　もしくは e-mail：chiikicom@city.kyotango.lg.jp　までお気軽にお問い合わせください。

場合によっては、オンラインによる相談ミーティングの実施も可能です。

## １０　現地フィールドワーク

日　　時：１２月５日（土）午前１０時から午後２時頃まで（予定）

内　　容：現地フィールドワーク及び受入地域との交流

※訪問予定地域：峰山町五箇、その他連携を予定している地域・施設など

備　　考：集合場所までの旅費及び昼食代は各自の負担となります。

集合時間・場所は申込者にお知らせします。集合後は、京丹後市公用車にて現地を巡ります。

参加方法：京丹後市ホームページから現地フィールドワーク参加用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、地域コミュニティ・にぎわいづくり課までメールにてご提出ください。

なおファイルは PDF 形式に変換して添付ください。

行程詳細：お申し込みいただいた人に別途お知らせします。

申込〆切：１１月３０日（月）

ご都合が悪い人については、可能な限り個別に対応いたしますので、事務局までご相談ください。

## １１　選考

（１）第１次選考（書類審査）

書類選考を行い、応募者全員に結果を通知します。

（２）第２次選考（現地面接）

１月２２日（金）実施予定、第１次選考の合格者を対象に面接を行います。

会場や時間など詳細は第１次選考の合格者に通知します。

## １２　事務局（お問い合わせ）

京丹後市役所 市長公室　峰山市民局　担当者：西

〒６２７-８５６７　京都府京丹後市峰山町杉谷８８９　　℡：０７７２－６９－０７１１

e-mail：mineyama-shimin@city.kyotango.lg.jp

※本募集への応募、オンライン説明会・現地フィールドワークへの参加の申し込みについては、

地域コミュニティ・にぎわいづくり課まで　e-mail：chiikicom@city.kyotango.lg.jp

**一緒に森を再生し、人と自然が生き生きと共存するまちをつくりましょう！**



**※地域の象徴「磯砂山(いさなごさん)」からの眺め**